

「けやき俳句の会」会報(第二百十四回)

令和三年七月七日

第二百十四句会記録

★日時 令和三年七月七日

★場所 千葉中央コミュニティセンター

★参加者十四名 (総数六十句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

- ② 風炉手前この世の端へ人招き
- ② 今年竹喜々と青ます驟雨かな
- ② 手つかずの山毛櫨林南風の青き音

★真樹先生選句 (◎は特選)

- ◎④ ハンカチを畳んでからの自己主張 隼人
- ◎④ 梅漬けの指示かくしやく豊饒の百一歳 廣川
- ◎① 麦秋の一隅暗し村さびれ 一華
- ④ 大賀蓮古代伝えて咲き誇る 盈光
- ② 暗渠なりかつては蛍飛びし川 清明
- ② 蓼科の山の滴り展墓かな 清明
- ② 舫い舟揺らしておりぬ鯉の群 青嵐
- ② でで虫のゆるりゆるりゆる葉の先に 冬水
- ② 浄土へと人を誘う蓮の花 一華
- ② 空を切る我が手や真夜の蚊の唸り 渡辺
- ① 薔薇の花と猫居る出窓新入居 青嵐
- ① 太極拳の間隔空けて木下闇 青嵐
- ① 南天の花揺れる窓顔洗う 渡辺
- ① 園の猿さびしげに吠ゆ梅雨雲に 可良

④ きやらぶきを煮つめて近し母の味 鳴石

③ 整然と並ぶ青田の夜明けかな 夢城

③ 夏燕旅立ち揃いの燕尾服 夢城

③ 蛍火や命つなぎし脈の音 香魚

③ ビニール着て届く新聞梅雨の朝 樹音

② きよき水命托して蛍とぶ 而今

② 老松にすがり鳴く蟬七日かな 而今

② 青田風行き止まりまで選挙カー 香魚

② 雨粒を避けてつばくろ巢立けり 廣川

② 落ちて知る今日咲き初めし夏椿の花 鳴石

① 夏草をむしるそばから玉の汗 誠

① 亡き人も回り燈籠に招き入れ 誠

① 草むしり草の本心知らずして 隼人

① 副都心霞みて遠し梅雨ぐもり 樹音

① 梅雨寒のうたた寝蛙通り雨 盈光

① 子かまきり武器もて生れる性悲し 一華

① 大賀ハス目覚めの音を聴かせてよ 東洋

① 素通りの出来ぬ香りや実梅手に 藍愛

① オレンジに散りては咲くや凌霄花 渡辺

【次回開催】

令和三年八月四日

三句提出

会員互選句

- ⑤ 庭木伐る風を流して梅雨に入る 夢城
- ④ 荒梅雨や人の暮らしの儂さよ 真弓